

SU-27S Flanker B

Ukrainian Air Forces,
digital camouflage.

"Воїни світла"

(Warriors of Light = 光の戦士たち)



ノズル用エッチングパーツを上手に丸めるには
最初にライターで焼きなますと曲げやすくなる!

デジタル迷彩塗装レポート

ウクライナ空軍デジタル迷彩

トランベッター 1/72 中国空軍 J11B
DREAM MODEL エッチング
FOXBOT 社デカール&マスキング使用

製作: Kato Tatsuyuki 撮影: Kato Tatsuyuki 撮影: 竹内尚典

なんとなく……では再現できないデジタル迷彩を
FOXBOT 社のデカールとマスキングを使用して
スホーイ 27 系が大好きなキティ・タツマキ氏が
……愛惜込めて視覚よく塗装
実際にその実装のバリエーションを数回で試そうです

スホーイ 27S "青の 58"ウォリアーズ
オブ・ライト、ウクライナ空軍第 831 旅
団戦闘航空隊、ミールホロド基地所属。
2016 年 6 月、デンマークのスクリュズ
ストロップ基地で開催された航空ショーで初
登場。

ウクライナのフランカーは、Su-27S の
派生型、基本は単座で、AL-31F エンジ
ンの改良型を搭載した "T10S" である。ウ
クライナ空軍は、2013 年時点で 50 機の
SU-27S を保有していたが、飛行可能な
機体は 2014 年には 36 機に減り、2015
年には 18 機となった。

使用するデカールとマスキングセットは
FOXBOT 社製の 07 部隊用全機用派生型とツボと

んど使っていないが、Dream Model 社の
エグゾート・ノーズPE & ラダー・セット
(DM0544 AL-31) を使用している。

давай зробимо це!!
(では始めよう!)

インタークを組み込んだ後、大きなパーツを
仮組み、コクピットのディテールを追加し、
HUD のエッチングパーツを挿入。塗装後
にシルバーでドライブラシ。

フラップを切り離しフラップダウンの状
態にする。この J-11B のパーツの合わせ
目は製法が結構粗なので、パテ埋めとやす
り削りは必須。

接着、やすり削り、スジボリ、パテ埋め

の繰り返し。フェアリング・アクチュエー
タは、スタビライザーの角度に合うように
キットのパーツを切り離して自作した。イン
ターク・グリルには半信名の SU-33 の
エッチングを応用。なんとかうまくはまっ
てくれた。

パネルラインのスジボリを修正し、合わ
せ目をチェックした後にはヒトゲツをつける。
Dream Model のノズル用エッチング
パーツ (DM0544 AL-31) を組み立てリブを
塗布。

ノズル用のエッチングパーツの丸め方を
ここで紹介しておこう。最初にライターで
焼きなます。これによって、金属組織の均
質化と内部応力の除去が行われ加工性が

上がる。つまり曲げやすくなるのである。
ゆっくり冷ました後、丸いマーカーペン等
に書き付ければ自然に形になってくれる。

ランディングギアは、口徑の違うブラ棒
とマスキングテープを何種類か使ってホー
スやケーブル等のディテールを記える。

パイロンとミサイル一式、Vympel
R-27R AA-10 Alamo A、Vympel
R-27T AA-10 Alamo B と Vympel
R-73 AA-11 Archer を作る。全部で 9 個、
デカール貼り、ウォッシング、ウェザリン
グを施す。

Dream Model の Su-27 ラダー・エッ
チングセット (DM530) の製作。面割の粗
み立てを消ませ、明るいオレンジ色に塗装、

スポンジに顔色を塗ってチッピングの後、ウォッシングして完了。

機体の塗装にはAKANの塗料セットを使用。これは水性塗料でタミヤとファレホの間くらいの塗装の質感、これでよいと機体の塗装にかかると。

機体の塗装

ジャーマングレーでまずパネルラインをブリ・シェイディング。その後Wooden brownを加えて若干柔らか目に馴染ませた色を何色かランダムに機体に塗いた。そ

してまず機体下部に、AKAN 77202 FS25183 light Blueを塗る。この色は本当に美しい。Mr.カラーの323をライトブルーより3Aの少し濃い目の色味と言える。

そして次にAKAN 77203 FS16293 Medium Grayで、カモフラージュ一番掛る部分を使う。これはもう特許の異なり感になる。というのは、この後FOXBOT製のフリ・カットマスキングを使うので、塗装する部分を決めず正確に決めて行く必要があるからだ。

ライトグレイ色をマスキングをする。全部で11箇所になる。Light Grey→マスキング→Sky Blue→その上にまたマスキングを施す→そしてTraffic Blueを吹く。実はTraffic BlueとSky Blueとはそんなに明暗差がないのだ。

正確に取り付けられた裏面の各パーツを塗装。マスキングした後AKAN 77204・Grey Red transparentを吹く。ガンホッドはマスキングして塗装し、Mr.カラーのB系シルバーとS&B社のステンレススチール・ミラーで塗ったメタルパーツ

を取り付ける。

そしてグイア・カラーのEx-03Ex・リアーを吹きつける。10時間ほど乾燥させた後、デカール貼りの作業に入る。FOXBOT社のデカールは大宮精細な表現で素晴らしい出来だ。野の物のように輝いたのが特徴。

機体表面の表現手法

デカール貼り完了したらウォッシングとウェザリングから保護するためクリアーコートで吹く。ノズル部分をDahr

Rowneyの白色アクリル・アーティストインクでタッチアップして彩度を調整。

各パネルのウォッシング。AKインタラクティブのPanel liner for Gray and Blue camouflage(AK2072)を使ってサンプルに倣す。2時間くらい作業を待たせ、そして、Daler Rowneyの油絵具で、色白のメリハリ、退色表現。ウェザリングとフィルタリングを行う。使った物は、パーント・アンバー、ロウ・シェンナ、コバルト・バイオレット、フレンチ・ウルトラマリンそしてライト・レッド。

油絵具を数滴ずつに、ミサイルを塗装。ランディングギア、アンテナ、ピトー管、ラダーを取り付けた。これではほぼ完成だ。最後に塗ったのは、全てトップコートはセミグロスかそれともフラットにするか、ということ。

今回はセミグロスでトップコートした。この機体はそんなに古いものじゃないので、セミグロスで遠慮に合うだろうという判断。キャノピーのマスキングを削がし、コンパウンドで磨きホコリを落とす。

ディスプレイ用のベースを作る

ダイソーで買った20X30cmの特殊成形ボードとICM製のロシア軍用史跡門コンクリートプレート・キットから20枚を使って地面を製作。AKインタラクティブのマテリアルで、フィルタリング、ウェザリング、ウェザリングを施し、エンジンやオイルや燃料の染み等を再現する。

機体になるだけリアルに見せるのがポイント。白いラインを加えて全体を引き締めた。ネームプレートも削って、これでフィギュアを完成させた。

デカールには沢山のナンバーと、Su27およびSu27UB用のものが豊富に準備されていますから、残った部分は、次にスコーイを作る時までとっておいたらいいでしょう。このデカールセットは、ランディングギアのドア、エンジン部分、機体下部用等の各種ステンシルが山盛りになっているのも特徴だ。

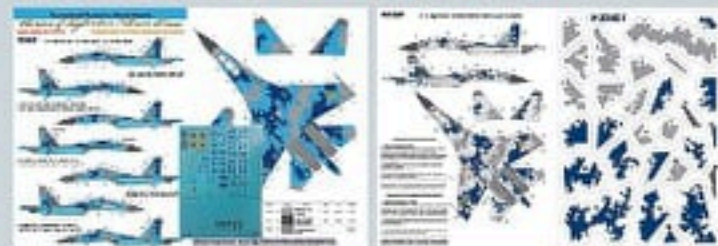
皆さんもデジタル迷彩にチャレンジしてみてください。

色目のメリハリ、退色表現にはDaler Rowneyの油絵具を使用している



今回使用したのはコレ!

ウクライナ空軍用 Su-27 デカール&マスキングシート



Decal Su-27s & Su-27UB Ukrainian Air Forces, digital camouflage Product FOXBOT # 72-001

Masks for digital camouflage of Su-27 Ukrainian Air Forces Product FOXBOT # TM72-003

ウクライナの「FOXBOT」社は航空機や軍事車両に関するデカールやマスキングシートを発売しているメーカー。デカールは高品質のシルク印刷。マスキングシートはビニール製。東欧軍ファンなら一度は手にしてほしい商品。詳しくは下記のウェブで!

<http://foxbot.com.ua/>

